

## 会 議 録

会議の名称	西東京市図書館協議会 令和5年度第2回定例会		
開催日時	令和5年7月7日（金）午後1時30分から3時30分まで		
開催場所	田無第二庁舎4階会議室1		
出席者	委員：会長、副会長、上田委員、福士委員、吉田委員、藤田委員 員 山辺委員 長谷川委員 高橋委員 （欠席）東山委員 事務局：徳山館長、司城副館長、金本庶務係長		
傍聴者	0名		
議 題	第1 諸報告 第2 図書館計画策定懇談会における「これからの図書館の方向性について（案）」について 第3 その他		
会議資料の名称	1-1	西東京市図書館の利用に関するアンケート15歳以上	グラフ
	1-2	西東京市図書館の利用に関するアンケート15歳以上	自由意見
	1-3	西東京市図書館の利用に関するアンケート15歳以上	クロス集計グラフ
	1-4	西東京市図書館の利用に関するアンケート	小学生 グラフ
	1-5	西東京市図書館の利用に関するアンケート	小学生 自由意見
	1-6	西東京市図書館の利用に関するアンケート	中学生 グラフ
	1-7	西東京市図書館の利用に関するアンケート	中学生 自由意見
	資料2 参考資料：これからの図書館（課内）		
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録		
会 議 内 容			
<p>○会長</p> <p>4月の統一地方選で、兵庫県芦屋市長選で当選された25歳の高島さんという人ですが、灘高から東大、東大やめて、ハーバードに行かれたのですが、子どもの時から本が好きでずっと読んでいてニューヨークに留学する。これは最終的にはニューヨークの公共図書館の話ですけれども、この話を覚えていたので、何度も何度もニューヨークの公共図書館に通った。帰国して市長になって、YouTubeで配信をしていますけれども、小さいころから、『としょかんライオン』が好きだった舞台となったニューヨークの公共図書館に行きたくてしょうがなかった。留学でアメリカに行ったときに何度もニューヨークの公共図書館に行った。図書館はいろいろな市民が集まり、本を読んだり借りたりするだけでなく、一緒に考えたり、思いを共有したりできるが、人との出会い、市民との出会い、歴史との出会い、芦屋の未来を作る場として、図書館がふさわしいと考えていると、YouTubeで配信している。初めて若手の市長だから、うまくいくか分からないですけれども、なんか、そんな思いで、市長になられたよう</p>			

ですね。ちょっと芦屋市の図書館行政がどうなるか、そんな話。

○副会長

その本読んだ人が市長というのがびっくりなんですけれど。

○会長

話としては、ライオンが来た。カウンターの方は館長さん、図書館にライオンが来たけれども大変ですよという話になったわけなんですけれども、メリウエザー館長さん、女性の館長ですけれども、図書館にライオンが来ちゃいけないという決まりはありますから、始まる。まあ、よろしければ。

○委員

図書館でもそのぐらいの案内をしなければ。誰でもどなたでもどうぞと。田無も。

○会長

それでは、協議会を始めたいと思います。それでは、諸報告の方を事務局からお願いいたします。

## 第1 諸報告

○館長

- ・ 6月議会報告
  - ・ 子ども電子図書館サービスについて
  - ・ 「図書館を使った調べる学習コンクール」について
  - ・ 武蔵野大学との連携について
- (上記の報告)

○会長

何か質問等ありますか。

○副会長

「図書館を使った調べる学習コンクール」の募集は9月に入ってからか。

○館長

募集期間は、9月1日から17日まで。

○副会長

夏休みに作ったものを出す形か。宿題として考えると、学校に提出すると思うが。

○館長

学校司書の協力をいただき、自分の通っている学校に提出し、学校司書の方が取りまとめて、学校と図書館の間の団体配送便で、図書館に提出してもらうよう計画しています。

○副会長

本人が持ってこなくても、学校でまとめてくださるような仕組みもあるんですね。

○館長

このコンクールは、私立・国立に通っている小学5、6年生の児童も図書館に直接申し込むか郵送申し込みができる。図書館に直接提出される数は予想ができないが、市立の学校に通う児童が多いと考えている。

○副会長

東久留米の図書館でも違うポスターで同じ内容の募集をしていた。

○館長

東久留米市は、昨年度までは違う名称で同様の企画を実施していたが、今年は、前年度と同様の内容で実施するが、今年度は当市と同じ名称で開催する予定とのこと。近隣では、清瀬市が3、4回実施しており、高橋先生は前任が清瀬市内小学校ですか。

○委員

私は前任が清瀬で、こちらのコンクールにも参加させてもらっていた。

○館長

例えば、杉並区は二十数回。回数重ねているところもあるが、うちは今回初めてで図書館側も手探り状態。

○副会長

バッチがとっても楽しみで、シラベルとクラベルっていい名前と思っていたが、©がついているから、財団のキャラクターなのですね。5、6年生というけれど、それを付けている人がいたら小学生でなくても質問してもよいのか。そこをぜひ図書館の人と仲良くなろうというきっかけにもしてもらおうと思う。

○館長

このコンクール自体は、5、6年生対象だが、各学校の宿題について図書館を使おうと思っている児童は、1年生でも何年生でも関係なく、来館すれば、きちんと対応する。

○副会長

バッチを付けている人がいるだけで楽しくなると思うので、ぜひ、続けていただくといいと思う。

○委員

主催や表彰はどこか。

○館長

地域コンクールは、西東京市教育委員会で、全体のものは、公益財団法人図書館振興財団というところが主催する。

○委員

SLA（全国学校図書館協議会）の読書感想文のコンクールなどは今、西東京市はどうしているのか。学校を経由して提出とは思いますが。学校ではいかがか。

○委員

夏休みの宿題にはしていない。やりたい人が取り組む形で、学校で取りまとめている。

○委員

全国学校図書館協議会の賞状が出ていたが、今回は教育長と聞いたので確認した。

○館長

地域コンクール自体西東京市は初めてですが、昨年までは小学生・中学生は、全国コンクールに直接申し込む形式。

○委員

西東京市では、今回初めてということだが、そういう情報は知られているのか。

○館長

図書館からは特に昨年まで広報をしていない。

○会長

他にありますか

○委員

紹介のあった武蔵野大学とのコラボは、この事業は、大学にとっても大変意味のあることで、児童文学のゼミの学生が自分たちの研究していることが実際の場でどういう風に子どもたちが受け止めるとか、そういうことを直に見られる本当に貴重な機会だと思って、大学側も楽しみに、良い機会になることを祈っている。

○会長

とてもいい話。ありがとうございました。他によろしいか。議題1 諸報告を終わる。

## 第2 図書館計画策定懇談会における「これからの図書館の方向性について（案）」について

### ○館長

- ・図書館計画策定懇談会の開催・進行状況の説明
- ・本議題についての背景・考えを説明
- ・将来的な図書館の方向性について説明及び委員の意見等を求める依頼

### ○会長

館長から、資料の説明がありました。この4月から協議会の委員が交代して、新しいメンバーになりましたが、継続的な話として、施設のところは3月の段階で、どうするかという話があって、各委員が、それぞれ1案がいい2案がいい、3案がいいという話を出して実は、そこで終わっている。ですから、そこを少しもう一度復習する形にして、そうするとハードな話になる。

### ○委員

そこからの方がいいと思う。

### ○会長

昨年度、市全体が、公共施設マネジメント課の計画、市全体の施設をどうするか、結構話題になった。それと並行して、図書館をどうするかという話があり、その流れで、公共施設マネジメント計画に対して、職員の案が出てきて、それに対して協議会として意見を出したという流れで理解している。

### ○館長

- ・公共マネジメント課の公共施設等総合管理計画の概略説明
- ・いままでの中央図書館に関する議論等の経緯説明

### ○会長

西東京市の図書館に望むもの、「私たちが望む西東京市の図書館」というのは、大枠の話で、ソフトもハードも含めてということだと思う。もう一つ、具体的などころでは、施設の話が出てきていて、施設のところで具体的などころでは5つの案だけできている。一つは、現状維持型。現状維持型というのは、今の中央図書館と、駅前が5館ある。

### ○委員

全部で6館あるうちの駅前4館、2館は住宅地にある。

### ○会長

現状維持型というのは、課題があって、一つは中央図書館が耐震補強はしたけれども、将来的に持つわけではなくて、あと、十数年ぐらいで考えなくてはならない。また、都営に入っているところは、東京都の意向があり、もしかしたら民間に売却等されてしまうかもしれない。というような課題があって、現状維持型というのには問題

がある。二つ目が、東伏見駅を含めた5駅周辺含めた配置案があるが、どういうことですか。

#### ○図書館長

現時点では、駅に近い図書館という考え方が一つあり、都営住宅でとの意向というものもあるが、市としては、駅前に図書館があるべきだという考えがある。継続して利用することは都との交渉によるが、要は都営関係なく、駅周辺で図書館を何かしら建てるといふ考えであれば、その方針に則って考えていくということだが、今駅に4駅あって、東伏見駅にだけないので、そこに、駅の近くに駅近の図書館をもうひとつ増やして、要は5つの駅にすべてに図書館を設置するというもの。

#### ○会長

三つ目が、中学校区配置型、半径1キロメートル程度の徒歩圏内で利用できるもの。中学校が現在9校あるから、では学校に9館設置するというのではなく、1キロというのがあるから、同じような数ということ。

次の四つ目が、小学校配置型、小学校全部で18校あるから、今より小さな図書館をたくさん作ろうという考え方。

五つめが、新中央図書館集約型、地域館等はなくし、一つ作れば良いという考え方。

それぞれメリット・デメリットなどがあって、特にその計画を読んで気になったのは、都営に入っている地域館の将来的な部分が読み切れない。また、その対案としてあるのが、学校との複合施設間は、かなり将来的にはあるのかな、という感じはしているが、議論の余地はある。昨日資料見直して、そのように考えたが、一つは、中央図書館は、ぜひ欲しいというのがあり、それと地域館をどのようにしていくのか、というところが次の課題になるが、いかがでしょうか。

#### ○委員

提案だが、今回初めて委員になった方に、今の説明、状況を踏まえて、何か、感じたことであるとか、私はこのように考えるでもいいので、お話を聞かせて欲しい。

#### ○会長

分からない部分など、いろいろ含めて、館長が説明してくれる。

#### ○委員

メリット・デメリットそれぞれあって、おそらく、行政的な面があり予算減というところで、どうしても図書館などの文化的な話は後回しにされやすい。仕方ないのかもしれないが、こういう観点で言うと、コストのかからない方法、小中学校の複合施設化のような話というのは、コスト減という観点から、かなり現実的なのかなと。確かに、小中学校は、市内で一定の距離で配置されているので、地域バランスを取りやすい。一方で、社会人目線ではあるかもしれないが、駅周辺にあるのは、生活動線にあることになるので、すごく利用者からするとありがたい。現在の駅前にある図書館のような書架がある形ではなくて、貸し借りができる、予約ができる、借りる、返すという最低限の機能だけでも駅周辺にあると、今まで生活動線の中で使っていた人た

ちからの不満というの、軽減されやすいと思う。メリット・デメリットがあるなか、デメリットをどう埋めていくか、というところに特化しながら考えていくと、着地点が見えるのかなど。そのような視点から考えてみると、私の頭の中では、小中学校と複合させる案に、デメリットを補う上で、各駅に対して貸し借りできるカウンターみたいなものを配置する。昔目黒区に住んでいたことがあって、武蔵小山とかはカウンターみたいなものがあり、すごく使いやすかったので、もしかしたら、そういうところで設置ができると良いのかもしれないなど考えた。

#### ○委員

現時点でしっかりした意見ではないが、小中学校の案については、小学校が少子化で統廃合しているなか、自分の娘は、泉小がなくなって廃校となったので、保谷小になっている。将来的なことを考えると、もう少し小学校が減ってしまうのではないかなど、そうすると中学校も今あるところが、そのまま5年後10年後残っているかどうか、分からない状況だと思うので、中学校区域に配置できるのかなど。

ファミリー層が増えてはいるとは思いますが、体感的にも新築戸建てができていて、明らかに子連れ層を見かけるな、とは感じる一方で、小学校が廃校となったというのがあったので、小中学校の案は、将来的にどうなのかなど考える。

自身の住居が駅から離れており、徒歩25分ぐらいなので、最寄り駅ではなく、西武柳沢を使う、田無を使う、少し頑張って、ひばりヶ丘を使うなど、ほぼ市の間位置にいる。西東京市には市民20万人いるので、20万人が満足できるような大きい図書館を建てても良いと考える。はなバスが通る場所を考える必要があるとは思いますが、泉小の跡地に施設はできているものの、人通りや賑わいという面で、いま一つ盛りあがっておらず、寂しい気がしている。つまり、西東京市のど真ん中に施設ができたとしても、市の端に住んでいる人たちは、真ん中まで寄ってこないで、中心に大きい施設を建ててもたぶん来ないと、泉小の跡地の近くを歩いて、いつも思う。ただ、東伏見に図書館はあってもいいかもしれない。武蔵関の住民とかも利用できるかなどは思う。

#### ○委員

泉小学校の廃校の話は聞いているが、現在の地域事情が分からない。

#### ○委員

泉小学校は、もう10年以上前に廃校になっている。旧保谷市地域ではあるけれども、現在の小学校区でいうと、保谷小、住吉小、谷戸二小の3校に分かれるように区域があった。泉小学校の代わりに大きな跡地が残り、今は何か不思議な運動公園と呼ばれるような空地。そこには施設として公園と保育園があり、犬が入れるカフェのような店ができた。小学校が担っていた地域の防災拠点みたいなものとしての運動公園が残っているが、本当になにか不思議な建物。

#### ○委員

委員の20万人の人たちがすべて集まる大きい施設として市の真ん中にある中央図書館なのか、そうではないのか、どちらに言われたのか、最後の結論がよく分からなかったのですが。

○委員

中央図書館は旧田無市地区にあるが、西東京市の市民としては、西東京市全体を勘案した場所に欲しいと考える。

○委員

旧保谷市側ということか。別の施設として、ひばりが丘中学校もこの度新しくなって、旧ひばりが丘中学校の跡地も残っている。

○委員

ひばりが丘の方は、その地区で盛り上がりがあり良いと思う。また、田無側でも再開発があり、盛り上がってはいる。西武柳沢は、柳沢駅前の商店街が頑張っって活性化させようとしているので大丈夫かなど。そうすると保谷と東伏見の方が寂しい気がする。西東京市の地図上で、図書館の配置を見ると、どうしても、右下側の東伏見の方が弱いと感じる。大きい施設を建てるのがいいのか、現状維持がいいのかの判断は難しい。

○会長

上田委員、福士委員、いかがでしょうか。いろいろなご意見を3月の段階でいただいているが。

○委員

今回どのような話をするのか、つかめていないが、先ほど、会長の方から話にあった、今までの流れの中で言うと、図書館の中でかなり検討されたものが、前協議会の最後に出されて、その中に、現状維持型から新中央図書館集約型施設まで、これについての意見を求められていて、前協議会の最後に、何名の方から意見を選ばれて、それをまとめたものが、この意見のまとめ資料。そこまでは前回の話として進めていて、今年度は図書館計画策定懇談会というのが始まっていて、3回済んでいるということだが、施設に関して、課内検討で出されたようなことは、話の中に出ているか。

○図書館長

一応、この話自体も、資料も参考資料という形だが、協議会でいただいたご意見を含め、ご提示しており、その他いろいろな資料をもとに、考えて欲しい。

○委員

すでに策定懇談会を3回終えているので、その会議の中でも、施設案をどうするか話が進んでいるのか、もしくは違うかもしれないが、策定懇談会で話し合われたものに対して、協議会からは、どういう立ち位置で話ができるのか、というのが気になっている。協議会の場で何かいろいろな意見を出したことを少しまとめたとしても、それを図書館計画策定懇談会の方に出すのか。それとも、別の話として諮問を受けているのか。最終的にどのようにまとめていくのか、方向性が良く分からないのと、昨年度までの前協議会の末に出した意見のおさらい、それを見直すことはしていないのか、あらたな意見をいろいろ出すのも、どっちつかずになってしまう恐れがあると思



う。進め方として、時間は限られているが、どのように進めていくのか、交通整理をして欲しい。

#### ○図書館長

先ず図書館計画策定懇談会の全10回のうち、8回までに素案を作らなければならないことがある。また、図書館計画を策定する中で、図書館の基本方針や運営に関わる部分、事業などを含めて、事務局の方で準備をしながら、今後、準備資料等を元に検討していくが、現行の図書館計画があり、それを元に話し合うことはできるものの、将来的な図書館という部分については、現行の図書館計画の最後の章に載っている部分はあるが、その内容よりも少し進んだ視点や、アンケートの結果を元にもう少し検討した方が良いということが一つある。また、去年までは協議会でしか、市民の方のご意見をいただく場がなかったので、協議会の方で議論をした。今後、図書館計画策定懇談会の方でも、将来的な図書館という部分について、議論していくが、昨年協議会で皆さんからいろいろな意見というものがあり、次の図書館計画策定に図書館協議会委員のご意見を何等か反映していきたいということがある。

前協議会の中でご意見を含め話し合いをしていただいたのが、このまとめてある施設配置の部分、もう一つ、中央館と地域館の役割・機能であるとか、そのような部分も盛り込むものとして、図書館協議会と策定懇談会と両方に意見を聞ければと考えている。話し合う内容としては時間的に厳しいのは、十分承知しているが、そのような背景もあり、今回、議題に出している。

#### ○委員

先ほど、指摘があったが、新しく委員になられた方、経緯をご存じではないというところがあると思うので、たたき台として課内の検討内容として出されているものに前協議会で意見を出している内容に加えて、今日、いろいろな意見を総合的に聞いていく方向でよろしいということであれば、あまり時間がないが、まとめていく方向で目指していかなければいけない。

#### ○委員

今日、協議会の中で、策定懇談会において、どのような議論があるのか、協議会から策定懇談会の委員として出ている者として、何かしら皆様に伝える場を設けるといった話があった時に、私の中では、今、委員の意見のとおり、協議会で何を検討するのか分からないままでは、話ができないなというのが正直なところ。

昨年度に出してきた意見についてだが、言いたい放題な面があることを言っており、保谷庁舎の後に中央図書館を建てると書いているのが私。そのようなことも含めて、夢はいっぱい持っており、できることなら、かなって欲しいっていうものもある。以前の図書館計画策定するときには、中央図書館について理念として、こういうものが欲しいとか、大枠は言うことはできたけれども、施設的な面については、協議会の場では、言っても意味がないと捉えていた。今回中央図書館について、もう少し具体的なところまで進めていきたいとしているところがよく分からなかったが、基本的には十数年後には、今の中央図書館では持たないというのが分かっているのと、駅前や様々なところにある都営住宅に併設している図書館もどうなるか分からないというなかで、本来、新しい図書館としての方針は、そこに何かしら、もっと確固としたもの

を持たないといけないということで、今回の図書館計画ではもう少し具体的なことを書かれないと考えているという理解。そのような背景は十分理解できるが、今日、協議会の場で話をする内容を、策定懇談会に持っていくという話ではないという理解でよいか。館長の中で、策定懇談会は別の場であり、協議会というのは館長の諮問の場所であるから、市民の意見を詳しく聞きたいのかなと、という解釈だ。

今日の協議会の話し合う内容を市民からの意見として、次の策定懇談会に、協議会の4人の委員が出席するが、こんな話があったと4人の委員が言うのではなく、取りまとめた内容を館長から策定懇談会の場で伝えることとして、4人の委員は、それぞれの立場で、策定懇談会に出るという理解でよいか。

#### ○図書館長

協議会の場で話し合われた内容をまとめて、策定懇談会に持っていくということではなく、それぞれ協議会の各委員から意見をいただいた上で、図書館としての考え方や方向性に摺り寄せつつ、これはというものがあれば、やはり策定懇談会に揚げていきたいと考えている。図書館が全てを決めて新しい図書館を作るというのは、やはり市民の意見を聞いていないとなるので、市民の皆さんに使ってもらえる図書館を作るために、協議会の委員の方々から意見をもらい、策定懇談会で作り上げた図書館計画にて新しい図書館像を示し、将来図書館が建てられるということ、大げさな言い方にはなるが、そのような図書館計画にしていく必要がある。

将来的に建てられる可能性がある図書館のための準備として、中央図書館や地域館の存在は、西東京市図書館において大事な施設であり、市民のために必要不可欠な施設である旨を図書館計画で示しつつ、なぜ重要な施設であるのかと問われたときに、図書館は、市民の方々に対して、このようなことができる施設であるべきで、だから、このような機能や役割が必要である、と言えるようにしたいと考えている。

図書館や行政が考えているものと、市民の方々が考えているものと、全然違うものではないかということもあるが、以前までは、市民の意見を元に図書館がどのように考えようとも、行政的な面の制約などで、思うようにならないことがあったので、今回、この協議会や策定懇談会での意見などを取りまとめた結果が図書館計画だと示したいと考えて、各委員の意見等を聞ければと、議題に出したもので、協議会の案であるとか、意見であるとか、そのようなものをまとめようということではない。

#### ○委員

いくつか話が出たが、話の前提として、議論の前提として、今、施設の話をしているという前提では、一つは、中央図書館にしても地域館にしても、それぞれの役割は兎も角として、話の中心として、中央図書館は必要であるというのは、言って良いかなと。将来的に新しい中央図書館が欲しいというのは前提となる。どのようなものにするか、どのくらいの規模にするかは、兎も角として、中央図書館は必要だが、財政状況からすると、複合施設も有りであるということを知ることができるかどうか。そして、その上で、現状6館あるけれども、どこに設置するのかというのは少し置いておいて、本当は位置関係を精査できるという。現状の規模から言えば、600㎡から700㎡ぐらいの延べ床面積で、小さい地域館は、谷戸、芝久保図書館になる。そのような地域館にどのくらい資料を収蔵することができるか、開架室でどのくらい並べられるか、

地域館の機能として、どの程度が理想であるのかということも、別の話としてある。

中央図書館は絶対に必要で複合施設も有り、学校や他公共施設と複合施設になるか分からないが、都営の意向もあるかもしれないが、都営住宅に残るかもしれない。都営との併設でも、複合施設でも、その上でサービス拠点として、学校区はともかくとして、施設として何館ぐらいあったら良いのか、場所や拠点数を特定ができれば理想で、その話ができれば一番良いが、とりあえず現状では、施設については限定しなくて良いのではないだろうかという提案。その辺りを基本にしながら、意見等を話していければ良いのではないか。

確かに郵便ポストの数ほど図書館を、という話を50年前にしきりに言っていた時期があったが、現在では、小さくても良い、もちろん生活動線の中にあって欲しい、新町や柳沢の方の人たちは、中央線の方に行くかもしれないが、かつて中央図書館は一つの動線として、市南部の人たちは来ていたわけけれども、そのようなことも踏まえて、何館ぐらいがふさわしいのか、話を始めていき、煮詰めていければ良いと思う。

#### ○委員

もう一つだけ、いろいろ言ってしまう申し訳ないが、今、委員から話があったが、今日、話が出た中では、そのどこに何を置くかということのをどうするのか、ということとは別に、学校との複合施設化みたいなのは、可能ではないのかということと、駅、周辺に置くと生活動線と一致してメリットがあるよというお話が出ている。それで委員の意見のとおり、中央図書館機能が必要だということは疑いがない。前回の図書館計画策定時から言われ続けていた理屈とは、若干次元が異なる話も出ているので、違和感はありますが、それとは別に、先ほど議員の方からお話があったということですが、東伏見公園のそばに例えば作ったらいいじゃないかという話もあった。そのような意見は、おそらく市民の方から意見聴取すれば保谷庁舎の跡が空白地帯に作れば良いのではないかなど、いろいろ出てくると思います。いろいろ聞いた上で、参考にしていきたいということで、よろしいのではないかなど。

#### ○委員

複合施設ということだが、学校などの複合施設が一番建て替えなどの時間的なことを考えると可能性が高いのは承知しているが、やはり学校図書館と公共図書館とは目的が全く違う。児童生徒のための場所であり、先生のための場所である学校図書館という施設と、市民全員に対する公共図書館では違うと考える。子どもたちを安全に守るために誰でも入りやすすくない、入りにくい施設であるということも含めて、学校との複合化というのは、簡単に言うことはできるが、実際は難しいことだと思っている。ただ、これは時期的なものでいくと、これから学校が減っていくのは想像がつくところだが、すぐに子どもの数が減る市ではない。20年ぐらいは大丈夫でも、子どもが減っているのは確かなので、しかも小学校が近接している場所があるので、そこを直していこうなというのには想像がつく。そこに新しい図書館を作るのかといったら、多分複合化されるだろうなというのには、想像がつく。ただ、先ほども言ったように、学校だから大丈夫ということではなくて、しっかり準備をした上での複合化でなければ意味がないと考える。

○委員

複合の仕方、どのような形で併設するのか、学校施設の中の一部かもしれないし、入り口は全然違うかもしれないが、併設の在り方を議論しなければならないのだけれど、肝心な点は、決して出入り口が複合化で一緒だとは誰も考えないだろう。

○委員

敷地という部分で本当に可能かどうか、それはとても難しいこと。例えば図書館を併設する前に、特別支援学級の子たちが、あるいは、養護学校の子たちが一緒にインクルーシブとあって、通常期のことを学びあえる土地が欲しいと考えていれば、優先順位的には、図書館の併設は下がってきてしまうと学校側としては考える。メリット・デメリットを評価して議論すべき。

○委員

今年度新しく委員の方には是非いろいろなことを聞くことによって、今まで煮詰まってきた、考えてきたことの刺激を受ける、整理ができるなど、あるだろうと思う。今日話を聞きながら、もどかしい思いをみんなが感じているのは、以前出てきた話の際にも、メリット・デメリットが整理できない状況で、図書館のことだけを話しているが、学校との複合化の話があった時、今ある学校の敷地で考えるのか、若しくは違う施設と複合化するのか、移転するのか、そのようなことは、市としては考えがあるのだけれど、それも現状では分からない。

公民館と図書館の合築という話は、以前から敷地も含めて言われており、また、図書館と公民館は何館にするのか、単に建設の費用だけではなく、運営面を含めて、どのぐらいの職員が配置され、どのぐらいの区域を対象にするのかなどを考えながら、また、複合施設と言った時、民間施設を含み、例えば商業施設との併設という意見も出た場合、もっと困難になると思うので、実際に考えられる場所として保谷庁舎跡地や泉小の跡地であり、皆が思いつく場所に出ているが、いずれも一か所だけでは考えられないのと、メリット・デメリットを整理する方法も非常に難しく、そのような中、図書館協議会でどのような考えを出せるのか。去年、具体的な施設などは明言せず、「私たちの望む図書館」として理念的な部分をまとめて、図書館は、しっかりと、そのようなところを押さえて欲しいとまとめた。今年度、図書館計画と、市の総合計画があり、教育基本計画があり、それぞれに図書館について載せていくが、施設としてのハード面になると、どの施設と一緒に複合化するとか、複合化した場合に機能をお互い協力しながら進めていくなどは載せられないと思いますが、以前の公共施設等総合管理計画のヒヤリングや市の方針などで、機能別に分けて複合化する場合に、これとこれは一緒にしようとか、しないとか、そのような案も話し合われているので、施設的なハード面を全く分けて考えても意味がないかなと思う。

それから、実際に将来の財政的な予算がどうなるのか、例えば、小学校の建替えは、何年もかけて基金を積み立てして行われるわけだが、一方で図書館の建替えがある時は、どのように考えるのか、前提の条件が分からない中で、どう議論していけば、どう意見を出せば良いのか分からない。一般的には、市民の皆さんが図書館に何を求めているのか、ということを図書館長が聞きたいとは思いますが、様々な立場の意見があると思う。

### ○委員

委員の言う通り、現在3月の時点で5つの配置型等のいずれに対して意見は述べたが、それが現実的にどのように案として計画に落とし込まれるのか、全く見えていない。そうすると現実を前提にせず、意見を言うのは、ただ夢を語るだけになってしまう。この協議会で、これからの図書館をどのようにすれば良いのかという理想論を話し合いたいのか。ただ、施設的な問題は、理想論だけではなく、現実的な場所や機能にしても、限られた条件のなか、しっかりと判断できない状況では、意見を出しようがない。今までの協議会で意見を出したが、そこからさらに発展させて、議論して意見を言うというのは、少し難しいと思う。どのような意見をどのような形で言うのか。

### ○図書館長

協議会委員の方々は、図書館のことに対して理解がある方であり、図書館業務や図書館の存在意義とは、ということをつかっていた上で意見を出し、議論していることは、大変有り難いと思う。一方で図書館としては、現在、提供している様々な市民サービスの質や内容が、市民のためになっているのか、市民に伝わっているのか、という漠然とはしているが自問自答している。

大半の市民は、図書館に来て本を借りて帰っていくという利用の仕方であり、図書館に対してご意見をおっしゃる市民も一部にはいるものの、そのような利用状況や利用者対応のなかでは、図書館として現状のままで良いのか、将来的にも良いのか、という大きい視点での方針や答えが出ていない現状で、各図書館が大きいなか、図書館職員は、工夫を凝らしながら様々なサービスを提供している。

サービスを提供する中、施設的な課題として、例えば、資料を収集しているが、保存するには場所がないなどあるが、レファレンスサービスなど様々なサービスを続けていくためには、各館書庫を何とか整理して置き場所を考えながら、また、市民の方が利用する際、問題なく満足してもらえるよう取り組んでいる。現状、図書館側としては、施設的な面で妥協しながらではあるが、工夫し出来る範囲でサービスを提供している一方で、サービスを受ける側の市民は、現状の建物であれば、こういう機能・サービスがあるべきと考えている、という場合、図書館職員側と市民側との考えが同じになるよう取り組まなければならない。そのような考えが図書館側にある中で、図書館側の一方的な考えによる頑張りではなく、市民側にとって喜ばれ、利用して良かった、また利用しようと思われる頑張りである必要があり、それは、施設の部分と、サービスとしての役割の部分とがあるが、混同して話をしているところがあるので、協議会の委員の方々を困惑させる会議になってしまい、さらに議論を急がせてしまい申し訳ない。

### ○委員

急いでいることは理解するが、協議会は館長の諮問機関なので、何らかの解決となる案を何か出したいとは思いますが、具体的に何が欲しいのかよく分からない。何々というテーマについて意見を言うことはできるが、参考資料の「これからの図書館（課内）」の課内意見の最後に館長の考えが書かれているので、残された時間は少ないが、これに沿って意見を出すということであれば、できるのではないかと。

### ○図書館長

- ・参考資料「これからの図書館（課内意見）」最後ページ説明
- ・地域館の配置に関する考えを説明
- ・意見のまとめる方向について説明

### ○委員

西東京市の図書館で地域館の充実度という面ではあると思う。延べ床面積として保谷駅前が930あって、芝久保が620あり、谷戸が770、柳沢810、ひばりが丘が1,100あって、地域館の施設規模は、充実していると言って良い。あと、図書館職員が専門職で採用されており、予算も都内26市のなかでは、ある方だと思う。一つ気になるのは、中央図書館の延べ床面積が1,500㎡というところだと思う。そうすると西東京市の大きな課題としては規模だと言える。最近、いろいろな機能を持った中央館が多摩市にできたが、ネット情報だと結構大きい。西東京市民の視点からすると、いろいろな機能を持ち、車で来館でき、滞在できる中央図書館を作ってもらいたいと思う。あと、地域館については、館長から様々な背景や条件があるとの話があったが、都営と併設されている地域館の将来は、図書館も協議会も読み切れない。仮に東京都が都営住宅を存続しないという方向転換があった場合、当然住民や利用者にとっては簡単に割り切れる話ではなく、了解する人はいないと想像される。充実している地域館がなくなってしまう話であり、都営がなくなるので地域館がなくなるのではなく、何らかの形で地域の図書館を作るという方法は出てくると思う。都営を建設する時に地域館として1,000㎡前後を建てた過去があり、今がある訳だから、地域館が持つ役割というのは大事だと思う。都営住宅から東京都が手を引くという話が現時点ではなく、例えば、地域館として、ひばりが丘図書館があるが、どうなるか分からない状況で、近くに新しい施設を作るという発想は出てこない。そうすると東京都の都営住宅に対する動き次第となるため、地域館の配置などに意見が出せないものの、方向性としては1,000㎡前後の地域館を現状と同じように適切な場所に配置するとなる。地域館を維持するとなった場合、仮に都営住宅の問題があったとしても、当然、同様な機能を持つ施設をどのような形でも良いから作っていくとなると思う。複合施設の難しさは、先ほど委員からの意見もあったので、出来れば単独の施設が良い。現在の中央図書館でも田無公民館との併設で複合施設であり、運営や管理において大変さや難しさがあると思う。

### ○委員

今日の協議会の中で、それなりに意見は出てきたと思うが、館長が聞いたかったこととは違う話だったのか。

### ○図書館長

当初、施設的な面から意見を聞く内容として、1案から5案まで出したが、出来れば地域館において、例えば柳沢はシニアコーナー、保谷駅前ビジネスであるとか、地域の図書館として、地域性や特色を考えながら運営しているが、その色の出し方が今後も必要であるのか、中央館という意味では、すべての色を網羅していくのか、地域館は、中央館が網羅しているので、貸し借りや居場所として機能させるのか、図書館とは違う意見として、こういう地域館があっても良いとか、自由な視点で地域館としての図書館を考えて欲しい。

## ○委員

保谷駅前図書館をよく利用するが、ビジネスコーナーがあるというのは、この協議会で聞いて初めて知った。ビジネスコーナーはどこにあったのか、という感がある。柳沢図書館もよく行くが、シニアコーナーはどこだと聞かなければ分からない。そのような状況で意見を言うのは難しい。西東京市図書館の各地域館で、それぞれ力を入れてやっている現状を先ず、協議会委員、全員に共有されていなければ、さらに上を目指す取り組みというのは、出てこないと思う。現在、そのように取り組んでいる図書館としての様々な事業を説明して欲しい。また、今年これからの協議会において図書館の事業評価があるが、評価する事業の中で伝えてもらい、協議会から、もっとこういうことをした方が良いであるとか、こういう在り方もあるのではなか、ということ伝えることができる。

地域館の配置は実際に可能なのか、という話になると思う。会長の言う通り、今ある図書館を減らすというのは、市民の側からすると、考えにくいこと。実際に使っている人がいるのは、それぞれの自宅から一番近く、一番使いやすいからで、それを減らすかもしれない、現時点で近所の図書館がなくなっても良いとはならない。ただ、市の状況から考えると、大きい中央図書館が欲しいと言えば、どこかは減る可能性があるだろうと、若干想像できるが、保谷駅前は不要だとは絶対に言わない。今の中央図書館では、中央館として欲しいと考えている機能や充実すべき機能を実現することができない、という状況にあるのは、何年も前から、3館合築の話が出たときから出ていた。今度の図書館計画の中においても、充実して欲しい機能は出てくると思うし、市民の皆さんが満足できる中央図書館をどこに作るか分からないが、作った場合には、その近くにあるだろう今ある図書館は、減ったり、サービスポイントになったりするかもしれないのは、仕方がないかなと思う。そのような考えを、今すぐ協議会の中で共有というのは、なかなか難しいと思うが、館長が考えている案のイメージは理解できる。

あと、以前から西武池袋線の北側に図書館があると良いと思っている。現在、北町の市民は保谷駅を越さないと図書館がないが、以前は下保谷図書館があり便利であったので、図書館の空白地域も含めて地域館の配置を考えていければ良いと思う。

## ○会長

今日は、協議会とは別の図書館計画策定懇談会で「これからの図書館の方向性について（案）」を検討しているが、それと同じ資料を提示してもらい、意見あればという会であり、いろいろな意見が出たと思うが、よろしいか。

それでは、議題の2は終わりにし、議題3の「その他」のところ。

資料の中に会議録案、開催が5月19日のものが配られていると思うが、各自、自身の発言の箇所を確認するというところでよろしいか。いつまで確認するのか。

では、今日若しくは明日中に電子データで送られてくるので、それにコメントを入れて送り返すということで、7月14日までに各自メールで返信。

## ○副館長

前回出席していないが、現時点の会議録案は、とても熱い議論がかわされている箇所があり、要点として短くまとめることができない箇所がある。今回渡している会議

録案では、各自の発言を確認してもらい、その確認したものを改めて要点化し、さらに確認をもらい公開する。確認と作業する期間があり、間隔があいての公開となるが、公開する際の要点化の目標は、箇条書きとはいかないが少ないページ数でまとめられるよう考えている。

○会長

では、会議録の方は、よろしく願います。  
次に日程表が配られているが。

○図書館長

各委員からの出席可能の日程と会議室の部屋が確保できる日程を加味して、次の10月以降の日程、場所を確定した。視察も1回ある。

○会長

新しくできた多摩市中央図書館が良い。館内でおしゃべりができる図書館を売りにしている。施設の二階は自由にしゃべってもいい。

○図書館長

多摩市の状況を確認した上で連絡する。

○委員

質問、事業評価は、これからで10月からなのか。

○館長

図書館側の準備が遅れているので、10月か11月に評価をもらう予定。

○庶務係長

毎年、図書館事業概要をこの時期に配布していたが、今年度から、9月議会の決算認定が終わってから委員に渡す。図書館ホームページにも、9月、又は10月になる予定。

○会長

今日は終了とする。